

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200425		
法人名	医療法人圭愛会		
事業所名	グループホームことぶき		
所在地	茨城県日立市大久保町2409-2		
自己評価作成日	2022年5月15日	評価結果市町村受理日	2022年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870200425-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設に医療機関を有し、24時間いつでも医療の支援を受けられる環境にあること。また出張歯科治療も定着し、施設内で継続した歯の治療・管理が受けられる。
入居者様・職員共に在籍期間が長く、馴染みの関係が構築しやすい環境にある。
職員の大多数が介護福祉士の資格を有し、専門知識を共有しあって介護に従事している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人が複数の施設を展開する小高い場所にあり、景色と自然環境に恵まれた事業所である。家庭的な場所をモットーに、食事や入浴に対する手厚いケアが特徴的。職員の勤続年数は長く、10年以上勤務する職員が大半を占め、利用者にとって馴染みの顔となっている。法人の利点を生かして医療連携を強化し、職員の終末期ケアへの負担は少ない。訪問調査時、共有空間で見た利用者達の笑顔が印象的だった。
*** 新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で家族様・地域との交流が著しく制限されてる現状を踏まえ、以前にも増して職員は、入居者様を家族の一員と意識し、安心できる生活の継続維持に努めている。	家庭のような環境を重視した理念に基づき、毎日の食事にこだわりを持ち、家族のように一緒に買い物をし、家族のように一緒に食事を楽しむ様子があった。また、家族のような集団生活の中にあっても、一人の時間の確保も配慮されていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域交流は制限している。コロナ以前は敬老会や地域のイベントなど交流できる場に参加していた。	事業所は丘陵地の上部にあり、住宅街と離れていることから地域とのかかわりが希薄になりやすい。それを回避する為、地域のコミュニティーセンターを積極的に利用し、敬老会への参加や幼稚園、近隣のグループホームとの定期的な交流を図っていたが、コロナ禍による規制があり、現在は見送られている。今後、時期を見ながら交流を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍のため地域の人々に向けた活動は控えている。以前は、近隣の店での買い物や地域の行事等に参加し接することで、認知症への理解、支援方法を見て頂いていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でこの2年間は直接的な会議は開催されていない。が、書面等での情報交換を行い運営に活用させていただいている。	2ヶ月に一度の会議は現在開催されていないが、書面上で情報交換を行い、運営に反映できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年は7年ぶりの実地指導を受け、長年の運営の中で気付かずにいた問題点をご指摘頂き、思考・改善することができた。	市主催研修への参加やオンラインを利用して行政との関りを継続している。また、オンラインによる相談員会議も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が中心となり、毎月の勉強会にて日々の介護内容で身体拘束に当たる行為の有無を確認、また介護内容の検討を行っている。	身体拘束委員会を設置して毎月勉強会を開催し、身体拘束有無の確認や介護内容を振り返り、検討できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設病院で定期的実施されている研修や、他機関主催のオンライン研修に参加している。また、施設内においても勉強会で虐待についての内容を取り上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修には、併設病院での研修等に参加し理解に努めている。日常生活自立支援事業・成年後見人制度の研修はリモートでの参加でその理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約内容について口頭や書面にて説明を行い、十分理解し納得できたうえで入居となる。疑問点や不明点については、逐一説明を行う事を文書に明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情等の対応先として、県・市介護保険課・第三者委員会また管理者への窓口があることを口頭書面にて説明している。また意見要望を伺う機会として家族会を行っているが、コロナ禍のため控えている。	家族会に家族会長と副会長をたて、家族会の後に家族だけで話し合える時間を設け、家族の本音や言いにくいことの吸い上げをし、運営に反映できるよう配慮されている。当事業所の家族会は活発で、開催時は60名程度の参加があり、時には最小限の人数で参加するよう、家族にお願いしたこともあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の重要事項や方針について、全職員とのヒヤリングの機会を設け、施設運営に活かしている。	毎月1回、日中に行われる職員ミーティングでは、管理者と職員の隔たりも少なく、情報の共有や問題点を挙げ話し合いをもって、改善にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国が定める労働時間や給与水準等を遵守している。職員個々の家庭事情にも配慮し、職場環境の整備に努めている。また、併設病院の協力もあり、新型コロナのワクチン接種も迅速に行う事が出来た。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近年はオンライン研修を中心として、職員の経験年数に応じた資格取得や各種研修に参加できるよう、費用の補助やシフトの調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	提携しているグループホームの担当者と文書や電話等で情報交換を行っている。コロナ禍のため、直接会っての交流は控えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人や家族との面談を通して、自立して行える部分や支援が必要な部分を職員間で共有し、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族との面談を行い、現状の困りごと、不安なこと、入居後の要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みの時に、本人の現状について、本人を含めた家族や各関係機関から情報を頂き、グループホームをはじめとした支援方法のアドバイスをを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、入居者の出来ることを大切にし、掃除・テーブル拭き・洗い物・洗濯たたみなど、役割作りして生活に自信を持って頂きながら暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の現在の状態を、ご家族にお手紙や来所時にご報告し、意見をお聞きしながら状態に合わせた支援体制を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出が以前より行えず、馴染みのある場所へ行くことが難しい状況である。オンライン面会・窓越しでの対話などで対応し、馴染みのある方との関係が途切れないよう支援している。	旧友や地域で繋がりがあった方々の来訪・連絡があり、関りを継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの日常生活を細かくアセスメントをおこない、入居者同士の関係を把握し、良好な関係が継続できるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には介護要約、情報提供書を居宅、転居施設等に作成している。家族、他施設からの要望があれば継続的な相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や生活する中で、本人・家族から暮らし方や希望する事柄を伺い、実施できるよう支援している。困難な場合でも、生活歴や日頃の言動をアセスメントしプランニングしている。	本人の思いや、やりたいこと、身体的な目標などを契約時に聞き取り、その内容に沿ったプランニングを行う。	現状でも本人に寄り添うケアやその人の把握は行われているが、今後、さらに詳細な情報を職員や家族、本人から得ることで、より、その人に特化した思いや意向の把握に繋がることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・また利用されていたサービス事業者・医療機関等より聞き取りなど情報を収集しこれまでの暮らし方・生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所当初は、日常生活を細かく観察、記録を行い、初回のケアプラン作成に繋げている。その後も介護記録、申し送りにより情報の共有を行い、日常生活、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はそれぞれ担当の入居者を受け持っている。本人の状態のモニタリングから介護計画を作成し、本人・家族・他職員・ケアマネジャーの意見を集約し3か月、6か月間隔でケアプランを作成している。	職員は担当制で、それぞれ受け持ちの利用者がおり、モニタリングから介護計画の作成も行う。3ヶ月、6ヶ月間隔でケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はケアプランに基づきアセスメントシートに記録している。SOAP法を活用し、本人の言葉、言動、職員の客観的視点での状況を記入し、職員間で具体的情報を共有。課題を明確化し介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のために、家族が抱える状況も多様化しており、買い物支援、受診付き添いなど状況に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため外出も厳しくなっており、地域行事などへの参加は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望を汲み取り、当院以外のかかりつけ医を希望される場合は、医療機関へ情報提供を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医受診の希望がある場合は、意向に沿えるよう、家族の協力も受けながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を図り、健康状態を把握している。24時間体制で適切な医療対応が受けられるよう併設病院にも協力を得、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護要約にて情報提供を行っている。入院中は、面会に行き状態を把握し、退院後の適切な支援が行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意書を頂いている。終末期には、主治医・家族・職員での話し合いを行い、その人にあつた最善の終末となるよう支援している。随時状態の変化を家族と共有し、可能な限り面会に来ていただき本人と関わりを持って頂けるよう努めている。	終末期ケアの対応が可能。医療連携も強固で、職員の不安や負担も少ない。また主治医を交え、家族や職員と現状に合わせた予想できる範囲の話し合いを行い、その人にあつた最善の終末となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルを整備し掲示している。AEDの応対手順や急変時の対応は、勉強会で確認している。併設病院で24時間体制で連絡できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月ことぶき内で、火災・地震・竜巻を想定した訓練を実施し、併設病院の避難訓練にも参加し、連携を図っている。水・簡易トイレなどの備蓄品を完備し災害時に備えている。	原子力発電所が近くにあり、いざという時の為に法人内にシェルターが設置された。また、法人内の避難訓練が定期的に行われている。他、事業所独自の避難訓練は様々な想定で毎月実施されている。今後は訓練の記録を写真も含めながら残していくことが望ましい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や、その日の表情・口調を把握し、情報を共有しながら、個々に合った対応や言葉かけを心がけている。居室で過ごして居るときはプライベートの空間としてのんびり出来るよう支援している。	プライベート空間や居室での時間を大切にし、落ち着ける時間を支援している。口調や表情を見ながら個々に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。また、集団生活だからこそ、一人の時間を大切にし、適宜声掛けを行い、日中でも自室で一人で過ごす時間を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認してからの支援に努めている。日常生活の会話や表情から思いや希望を読み取り支援につなげている。自己決定ができるよう複数の選択肢を提案する等支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、職員本位にならぬよう本人の気持ちを尊重しながらケアプランに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、出張理容を使用しているが、今はコロナ禍で顔剃りは行えないので、自分で行えない方は、職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、季節の行事に合った献立で、外出出来ない分食事を楽しんで頂ける様に提供している。	旬の食材や行事などを考慮し、食を楽しむ支援をしている。現在、コロナ禍で外出は控えているが、その分、食事を楽しんでいただけるよう工夫している。家庭菜園は獣害にあったため、地域の特性を生かした山菜などを栽培し食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の様個々に合わせた形態・量の食事を提供し、排泄状況等配慮し、十分な栄養と水分量が摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを声掛けしている。介助の必要な方には状態合わせた支援を行い、清潔維持に努めている。又、出張歯科受診で義歯のメンテナンスと口腔管理を行ったいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて声かけ誘導一部介助を行い、トイレで排泄出来るように支援している。	個々の排泄状況を考慮しながら、排泄への支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量が摂取出来るように、フルーツヨーグルトやバランスの良い食事を心がけている。毎日決まった時間にラジオ体操やストレッチを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴出来るよう支援を行っている。個々の状態に合わせて、基本1人入浴を支援している。	毎日入浴できる準備がされている。本人の希望に合わせているが、ほとんどの方が毎日入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が出来るよう、午前・午後と体を使うレクリエーションを行っている。夜に少しでも安眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々が服用している全ての薬を把握している。服用時の効果・病状の変化等を主治医に適切に報告し指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は生活が中で個々の状態に合った役割(毎日の掃除・洗濯たたみ・食後の片付け等)を持たれている。(午前中・ぬり絵・ドリル・パズル・午後・ストレッチ体操等)を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍でバスハイク等外出はできないが、施設内で出来る季節に合ったレクリエーション(花見ドライブ・そうめん流し・焼き芋会等)を企画し、楽しんで頂けるよう支援している。	現在はコロナ禍で外出はできないが、施設内で出来る季節に合った花見ドライブ・そうめん流し、バーベキューなどを企画し、楽しんで頂けるよう支援している。今後は以前のように県央地域など法人のバスを活用した外出支援のほか、買い物などの日常的な外出支援も再開する予定。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談しながら、希望に添えるよう、一人ひとりの状態に合わせお金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときは、自由に家族や友人へ電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中でリビングにて過ごされるので温度や湿度に配慮している。植物や亀・お花季節感の入居者の写真や作品を飾り居心地の良い空間となるよう工夫している。	共有空間は広々としており、植物や装飾などで見当識障害への配慮がされ、利用者も職員も安心して過ごせる空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子などが置かれている。それぞれ好きな場所でくつろいだり、他者と会話できる共用空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや本人の馴染みのものを、家族と相談しながら置いて頂いている。ひとりひとりに合わせて居室の環境を整えている。	本人の愛用品や馴染みのものが持ち込まれ、その人らしい居室作りがされていた。	

茨城県 グループホームことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・お風呂場には手すりがあり、各所明示してある。余暇活動で使用する道具類など取出しやすくし、自立して行えるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム ことぶき

目標達成計画

作成年月日 : 2022年9月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	現在は、コロナ禍で、地域の人々・家族との交流が出来ない。	コロナが落ち着いたら、地域・家族との交流が出来る。	・入居者様と地域に買い物に外出する。・入居者様とバスハイクに外出する。家族会を年2回行い、家族と交流を持つ。入居者様と家族の面会・外出・外泊を支援します。	18ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。